

				NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会 報			
				発行人/理事長 馬 場 英 男			
				(連絡先) 〒625-0062			
				京都府舞鶴市森 875-2			
				TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764			
				E-mail brick@iris.eonet.ne.jp			
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴							
会報 112号 令和2年9月1日							
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ <a href="http://www.redbrick.jp/">http://www.redbrick.jp/</a>							

## 目 次

1 令和2年度通常総会 報告	事務局	4 「吉村昭を読む(シーボルトの血筋)」	小野 章
2 「解体された同志社大学の致遠館」	日向 進	5 「蛇島カソリン庫」見学会について	事務局
3 「茶又旅館が国登録有形文化財に登録へ」	吉岡 博之	6 その他 編集後記	事務局

## 1. 令和2年度通常総会 報告

事務局

令和2年6月6日(土)、令和2年度特定非営利活動(NPO)法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないことから、会員全員に議案を送付し、同封ハガキにて承認賛否をご記入頂き返信していただきました。同日は、法人理事会を開催し、みなし決議とさせていただきます。

以下、5議案について、正会員総数44名の内、ハガキ回答者は37名で、全員が全議案異議なく承認と記載されておりましたので、全議案承認されました。

第1号議案 平成31・令和元年度事業報告 (以下、議案については、省略させていただきます)

第2号議案 平成31・令和元年度決算報告

第3号議案 令和2年度事業計画

令和2年度も引き続き、法人の目的を達成するため、主に以下の事業が承認されましたが、コロナ禍で事業の中止あるいは変更いたしますのでご了承下さい。

- ① 市内赤煉瓦建造物の見学会(成生岬砲台跡) (コロナ禍で中止)  
但し、後述の「蛇島カソリン庫」の見学会が市主催で開催される場合、会員に希望を募り見学会に参加予定...
- ② 市外の近代化産業遺産視察会(広島旧陸軍被服支廠ほか) (コロナ禍で中止)
- ③ 赤煉瓦ネットワーク千葉市川市大会 (ネットワーク事務局・コロナ禍で来年に延期決定)

第4号議案 令和2年度事業会計予算

第5号議案 「特定非営利活動法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」の解散について

当法人は、平成3年発足以来永年活動を継続してきたが、このたび、法人の目的を達成したとの認識に立ち、今年度末にNPO法人格を返上解散する本議案を提案しました。解散については、当法人定款第52号第1項第1号の規定(総会の決議)による場合は、同条第2項の規定により「正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない」とされており正会員44名の2/3に当たる33名以上の37名の承認を得ましたので、今後、解散に向けた諸手続きを進めます。

法人解散後は、任意団体「赤煉瓦倶楽部舞鶴」に名称変更し、全国組織「赤煉瓦ネットワーク」の運営・交流・支援等、可能な限りの赤煉瓦に関わる活動を主に継続しますので、今後ともご理解、ご協力を頂きますようお願いいたします。

## 2. 「解体された同志社大学の致遠館」

認定特定非営利活動法人古材文化の会 日向 進

京都工芸繊維大学 名誉教授 (会員No.59 副理事長)

京都御所の北、相国寺参道の南西角に面する同志社大学の正門を入るとすぐ右にあったのが、瓦屋根で二階建て、赤煉瓦造の致遠館です。

同志社は1875(明治8)年に同志社英学校として開校し、1912(大正元)年の専門学校令により同志社大学が誕生します。1916年3月に竣工した致遠館は、同志社大学の教学施設としては第1号になる「政治経済部及英文科」の専用教室棟でした。戦後は事務棟として用途を変えながらも、今出川キャンパスに彩りを与えてきましたが、100余年にわたる役割を終えて解体されることにな

りました。そこで、同志社関連資料の収集、保存、公開等を行っている同志社社史資料センターは、消滅する致遠館をできる限り精細に記録することとし、調査報告書の作製が古材文化の会に託されました。

これまでの調査研究では、設計はW.M.ヴォーリスであろうとされています。ヴォーリスは同志社校歌(1908年制定)の作詞者でもあり、今出川構内の啓明館(旧図書館書庫1915年、本館1920年、国登録有形文化財)やアーモスト館(1932年、同前)を設計しています。致遠館が着工されるひと月前1915年7月30日の日付

をもつヴォーリスによる設計図がのこっています。建物名は明示されていませんが、玄関ポーチのペディメント（切妻壁）に同志社の徽章が認められること、米国コロニアル様式といわれる外観の意匠、致遠館の平面構成がこの設計図とほぼ合致することなどから、木造による原設計案をもとに煉瓦造で建築されたのであろうと推測されてきました。

解体はやむを得ないこととして、設計者や施工者などの特定に結びつく発見、発掘が期待されました。南西角の定礎石のところからは、平面図などを納めたブリキ製の小箱が見つかりました。1915年11月3日の定礎式に埋納された箱で、ちょうど煉瓦2個分の大きさです。その中に1葉の平面図があり、間取りはヴォーリスによる木造設計案がほぼ踏襲されていることが確認できました。小屋裏には棟札が打ち付けられていました。上棟式は1915年12月28日で、棟梁のほか石工、煉瓦積みなど職方の名前はありますが、設計者は記されていませんでした。残念ながら実施設計者を確定することはできませんでしたが、致遠館の空間構成や意匠はヴォーリスによる原設計案に由来するものであると、指導いただいた山形政昭氏（大阪芸術大学名誉教授）は述べておられます。

2019年8月末から解体が始まり、積み上げられた煉瓦のなかから、刻印があるものや文字が書かれたものが見つかりました。アルファベット大文字「O」「Y」に「ラ」を組み合わせた刻印は、1888（明治21）年から煉瓦製造を専業とした「大阪窯業」の社印です。同社の煉瓦は今出川構内のクラーク記念館（1894年、重要文化財）でも使われています。他にも、施工時の符丁とみられる漢数字や平仮名などが刻まれた煉瓦も見つかりました。刻印や刻字がある煉瓦のいくつかは、「舞鶴市立赤れんが博物館」に寄贈されました。

報告書は、致遠館の建築についての論考、図面、写真で構成されています。また近代建築の保存と活用をめぐる様々な課題に関する笠原一人氏（京都工芸繊維大学助教）による論稿を加えて、保存活用をとりまく問題点と今後の可能性を提示しています。

（付記：『同志社大学致遠館調査報告書』（A4、138頁、頒価：2,000円）についてのお問い合わせは、古材文化の会事務局までお願いします。

〒605-0981 京都市東山区本町17丁目35番地  
075-532-2103 <http://www.kozai.or.jp> )



致遠館（2019年5月2日撮影）



小口の刻印記号



大阪窯業の刻印

### 3. 「茶又旅館が国登録有形文化財に登録へ」

（会員NO.106 理事 吉岡博之）

去る3月19日、国の文化審議会は舞鶴市本町の茶又旅館（澤瀬 寛さん、愛子さん経営）の主屋と離れ、門と塀、土蔵の3件を登録有形文化財に登録するよう萩生田文部科学大臣に答申しました。

#### 1 由緒と沿革

茶又旅館は、旧田辺城下町の舞鶴市字本38番地に所在します。城の大手門に通じていた東西方向の本町通りを西向きに行き、南北方向の竹屋町通りとT字形に直交するところに東を向いて建つ旅館です。本町通りは北に約20m行くとクランク状に西に折れて、高野川に架かる大橋を渡ると京街道や宮津街道、さらには福知山方面に続く河守街道に接続。かつては大橋東北たもとに藩の高札場がありました。また、高野川河口の竹屋町は北前船等が寄港した商港町でもあり、川沿いの両岸には多くの蔵が建ち並び、荷を積んだ船が行き交って活況を呈した。竹屋通とつながる茶又旅館は商人宿としてすこぶる好地に立地しています。

茶又旅館の初代から3代までは、橋西の街道沿いの新町で旅籠を営み、4代の時に現在地に移転したといえます。明治19年（1886）10月作成の家相図から当時の建物配置が分かります。5代当主の大正8年（1919）、「主屋」と「離

れ（裏座敷）」の改築が計画され、8月に離れと風呂・洗面場を建てて同14年（1925）に主屋が完成。建築にあたった大工は、当主の従兄弟の瀬尾氏（江戸時代に田辺藩の作事棟梁を務めた瀬尾氏の一族か）と伝えます。

#### 2 建築年代・改修年代

太平洋戦争末期の昭和20年（1945）4月、空襲による類焼を防ぐための建物疎開命令が出され、茶又旅館は明治の家相図に描かれた土蔵を残して大正期の建物全てが取り壊されました。現在の建物は、昭和25年（1950）に破却前の平面や形式を継承、再現されたものだとのこと。

#### 3 建物について

主屋：総二階建て、屋根は切妻造、棧瓦葺。二階の両側に袖壁を付けています。

一階中央に間口二間の玄関を構え、奥の離れに延びる半間幅の中廊下を通し、途中に浴室と便所があります。中廊下の北側には帳場、厨房などが、南側には家族や使用人の居室を配置。二階は客室で、梁行ほぼ中央にも半間幅の中廊下を南北に通し、東西（左右）に客室が配され、東側の通りに面した客室にはガラス窓のひじ掛け窓と高欄（手すり）を設けています。

離れ：中庭を挟んで二階建ての離れが土蔵と接して建つ。屋根は土蔵側は寄棟、南側は切妻となっています。一階は続き部屋の客室、二階は2部屋あり、一・二階ともに高野川側の全面にひし掛け窓をあげ、ガラス窓付きの猫間障子を建て、高欄を設けています。

#### 4 評価

主屋は切妻造で2階の両側に袖壁を設けた、丹後、若狭地域の町家建築と共通する形式を備えています。2階を客室とするため“せい”が十分にあり、全面にガラス戸が入り高欄を設けていることや通りに沿って赤く塗った壁で結界している外観はこの建物が旅館を業とすることを表徴しています。各客室は、部屋毎に意匠を凝らした丸太普請の床廻りを構えています。離れは高野川に面して眺望が開く風雅な市中

の閑居というべき佇まいの座敷です。

中廊下を組み入れた平面計画、ガラス窓の多用、筋交いやボルト締め燧（ひうち）、また色付けをしない木部の仕上げなど、近代らしい手法がうかがえます。良質な資材ばかりでないのは、戦後の早い段階での復興であることを反映しています。

明治19年の移転時のものとみられる土蔵は、かつて商港として繁栄し、土蔵が建ち並んだ高野川筋の景観を伝えています。

#### 登録基準：1 国土の歴史的景観に寄与している

（京都工芸繊維大学名誉教授 日向 進 氏の調査所見より抜粋、一部改変

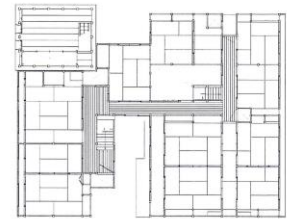


茶又旅館

◎ 茶又旅館 配置図



茶又旅館平面図



2階平面図



1階平面図

茶又旅館配置図

## 4. 「吉村 昭を読む（シーボルトの血筋）」

（会員NO.9 理事 小野 章）

吉村昭著「ふいおん・しいほととの娘」は、江戸時代末期に長崎に居たドイツ人医師シーボルトとタキの間にできた娘イネの生涯を描いているが、イネの子と孫の話をする。イネは医師を目指してオランダ海軍軍医ポンペや蘭方医・石井宗謙などに師事したが、婚姻せずに女兒を身ごもる。高子である。その後イネは高子を連れて宇和島藩に移り伊達宗成侯の知遇を得た。慶応2年に高子（15歳）はここで大村益次郎の弟子・三瀬周三と結婚する。高子も医師を目指すのだが、夫が明治10年に死亡した後明治12年頃男児を生む。その男児は高子の再婚前にイネが養子として受け入れたが、三瀬周三のような医師になるようにと周三と名付けた。高子はその後山脇泰助と再婚し三女をもうけたが、この夫も明治19年にコレラで死亡した。この辺りの経緯については、高子自身の内々の話として吉村昭著「歴史の影絵」に収録されている。

イネの孫即ちシーボルトの曾孫・楠本周三はどうなったか。宇神幸男著「幕末の女医楠本イネ」によると、長じて東京慈恵

医院医学専門学校（現・東京慈恵会医科大学）を卒業して医師となり、明治43年頃に高木兼寛（上記専門学校創設者、元海軍軍医総監）の勧めで明治40年に開院した舞鶴海軍工廠職工共済会病院（現・舞鶴共済病院）に勤務したとされる。小学生時代にこの病院で楠本医師の診察を受けたという人物の回想によると、周三は目が青く髭の赤い人であったという。楠本家の墓の刻字によると、周三は大正9年に42歳で亡くなっている。長男は、やはり慈恵医大を出て杉並保健所長を務め、その子息は歯科医をしている。

私事になるが、筆者は25年ほど前に舞鶴市民病院が米国から招いたオランダ国籍の医師を歓迎する集まりに出た際、折よく幕末にオランダ海軍軍医ポンペの著作「ポンペ日本滞に見聞記」を読んでいたもので、医師にポンペを知っているかと尋ねたところ、彼は勿論知っている、妻がポンペの子孫なのでと答えた。これがユングの言う「シンクロニシティ」なのかと驚いた次第であった。



楠本イネ



イネの娘・高子



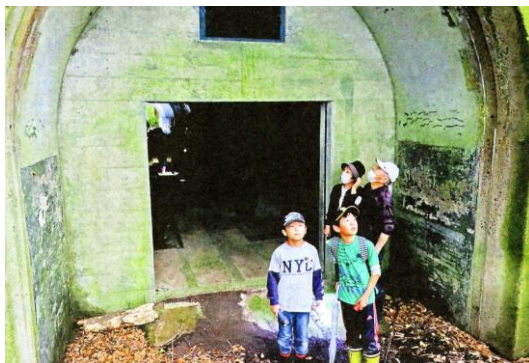
舞鶴海軍工廠職工共済会病院の古写真  
(besankosyashin.blog56.fc2)

## 5. 「蛇島ガソリン庫」見学会について

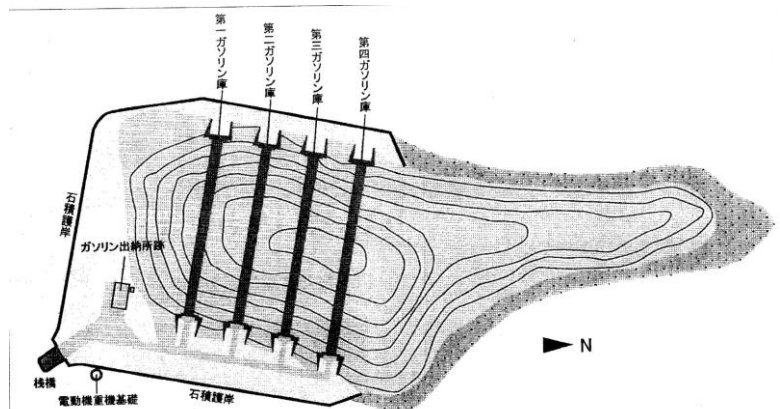
(事務局)

本年6月19日、舞鶴湾の旧海軍施設「蛇島ガソリン庫」が、2016年に旧海軍4市が認定された文化庁の日本遺産の構成文化財に追加登録されたことと新聞各紙で報道された。蛇島は、南北約260m、東西約100mでかつて湾内の海上交通の要衝で山城跡も残り、軍港整備で1992年に島を東西に貫く4つのトンネルが掘られ、ガソリン庫として利用。トンネルは、高さ3.5m、横幅3.6m、長さは65～70mで側壁はコンクリート造り、上部はアーチ状で煉瓦造り。

舞鶴市は、認定を契機に調査研究・活用に向けた環境整備・魅力発信に取り組むとしている。また、本年秋ごろに一般を対象に見学会を開催する予定としている。当法人としても初めての見学機会でもあり、見学案内があれば即座に申し込みをする必要があるため、会員で参加希望者は、当法人事務局までmail・fax(氏名・年齢・住所・電話)で事前にご連絡をお願いします。



見学会の様様(京都新聞2020.7.27転載)



「蛇島ガソリン庫」主な施設配置図

(市提供)

「蛇島ガソリン庫」主な施設配置図(舞鶴市民新聞2020.7.17転載)

## 6. その他 編集後記

(事務局)

皆さんお元気にお過ごしでしょうか。今号は、一か月遅れの発行となりました。新型コロナウイルス感染第2波が全国に拡大し、感染者報道に一喜一憂の毎日です。なんとなく自粛生活にも慣れ、普段出来なかった蔵書・書類整理処分、菜園の水やり・草引き等、充実した生活を過ごしています。世間も当法人も予定事業のほとんどが中止・縮小の状況です。世の中の生活様式・産業構造が一変し、リモート・テレワーク等の定着で大改革が断行できる好機と捉えれば良いのではと思うのですが、如何でしょうか。舞鶴でも戦後75年も放置されてきた舞鶴湾内の小島の「蛇島ガソリン庫」の調査・活用に向けた取り組みも始まり徐々に明るいニュースですし、「広島旧陸軍被服支廠」の赤煉瓦倉庫2棟解体も反対運動を受け国会議員も全棟保存を要望との報道もあり、今後、全国の戦争遺構が平和を希求する物言わぬ証人として重要性を増すことを期待します。(h.b)

会 員 資 格： 会費納入者(特別会員は除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けています。

会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号(01010-6-21476) 加入者名：赤煉瓦倶楽部舞鶴

